



SANKIグループの全体像をよりの確に、わかりやすく伝える 統合報告書「SANKI REPORT 2015」を発行

当社はこのたび、統合報告書「SANKI REPORT 2015」を発行しました。

本レポートは、経営成績などの財務情報と経営戦略、事業概況、CSR、環境への取組みなどの非財務情報を統合したもので、当社グループの1年間の活動をステークホルダーの皆さまにわかりやすくお伝えし、より理解していただくためのレポートです。

今年90周年を迎えた当社のあゆみやトップメッセージ、1年間の事業活動ハイライト、セグメント別の事業概況などを掲載しており、さらに事業戦略のページでは、当社グループの強みである「総合エンジニアリング」について、最新事例を交えながら説明しています。

統合報告書として作成4年目となる今回は、紙面構成を見直し、わかりやすくまた読みやすくするために、写真や図の掲載を増やしました。CSRマネジメントでは、当社のCSR活動を企画・設計から施工・改修など、事業活動のプロセス（バリューチェーン）を図で整理し、ステークホルダーの皆さまとのかかわりやCSR活動の全体像を把握しやすくしました。

「SANKI REPORT 2015」誌面紹介



①



②



③



④

①三機工業の90年 ②社長メッセージ ③三機工業の強み「総合エンジニアリング」 ④「総合エンジニアリング力」による価値創出

「SANKI REPORT 2015」は、こちらのホームページよりPDFデータをダウンロードしてご覧いただけます。<http://www.sanki.co.jp/csr/>



〒104-8506 東京都中央区明石町8の1 聖路加タワー
TEL.03-6367-7041 FAX.03-5565-5102
<http://www.sanki.co.jp/>



環境に配慮した
「ベジタブルオイルインキ」を
使用しています。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。

90 Anniversary

株主通信

第2四半期決算のご報告

[2016年3月期]

2015年4月1日～2015年9月30日

証券コード:1961



三機工業株式会社



代表取締役社長

長谷川 勉

株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社グループに対し一方向なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。2016年3月期第2四半期決算のご報告にあたり一言ご挨拶させていただきます。

上半期の事業環境は、好調な企業収益を背景に設備投資が回復基調にあるものの、中国経済の減速懸念の高まりを受け、力強さに欠ける状況となりました。建設投資につきましては、公共投資が減少傾向にある一方で、民間投資は緩やかに回復しており、当社グループの事業においても、受注環境の改善や不採算工事の減少などにより堅調な推移しております。

そのなかで当社グループは5か年の中期経営計画（SANKI VITAL PLAN 90th）の最終年度を迎え、計画の総仕上げに取り組んでまいりました。特に総合エンジニアリングのさらなる推進に向け、コミュニケーションの活性化によって部門間連携を強化しつつ、原価管理の徹底や現場のサポート体制の整備を図り、収益力の向上を目指してまいりました。

結果として上半期の業績は、期初予想を上回るペースで利益改善を果たし、通期業績における増収・増益に向けて、着実に前進しております。

また、配当につきましては、普通配当を年間15円から18円に増配予定であり、中間配当は9円とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社グループへのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年12月

上半期のご報告と通期の見通し

5か年の中期経営計画の最終年度を迎えた当期は、通期業績の増収・増益に向けて繰越工事の確実な進捗管理と短工期受注の確保に努め、同時に原価管理の徹底と現場サポート体制の整備を図っております。その結果、当上半期は建築設備事業、機械システム事業および環境システム事業のいずれも受注を拡大し、期初の計画を上回る利益改善を果たしました。

全体の受注高は992億6百万円（前年同期比22.1%増）を確保し、売上高は754億8千万円（同0.0%減）にとどまりましたが、損益面は、営業利益1億7千6百万円（前年同期は27億5百万円の損失）、経常利益5億2千4百万円（同23億2千5百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益2億5千5百万円（同13億2千7百万円の損失）となりました。

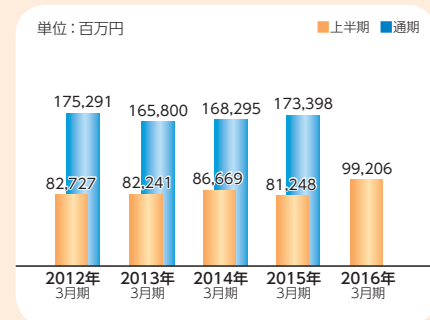
事業別の営業状況においては、受注環境の改善や不採算工事の減少などにより、主力の建築設備事業

が産業空調を中心に好調に推移し、受注拡大と利益改善を牽引しました。機械システム事業および環境システム事業は、大型案件の受注により、業績に寄与しました。

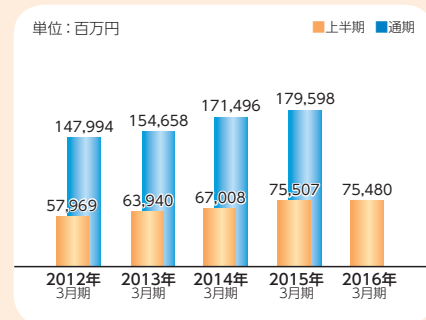
当第2四半期末現在の繰越受注高は1,257億4千5百万円を確保しております。下半期もさらなる受注獲得と確実な工事進捗により増収を目指すとともに、一層の利益改善を追求してまいります。

通期の連結業績については、上半期の実績を踏まえて損益面の予想数値を上方修正し、受注高1,850億円（前期比6.7%増）、売上高1,800億円（同0.2%増）、営業利益60億円（同103.3%増）、経常利益65億円（同70.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益44億円（同78.8%増）と大幅増益を見込んでおります。

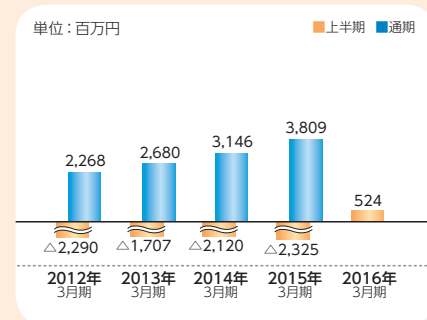
●受注高



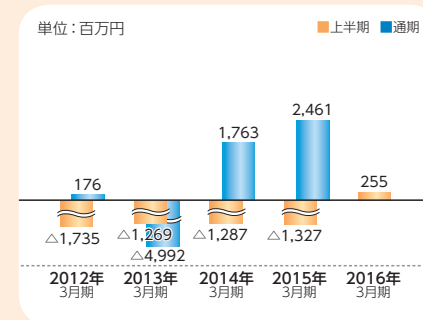
●売上高



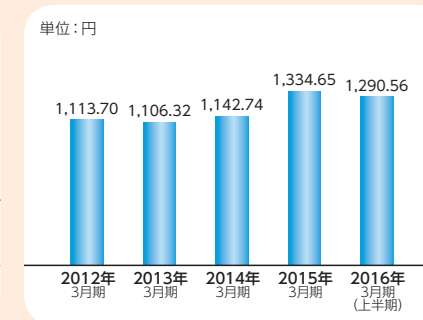
●経常損益



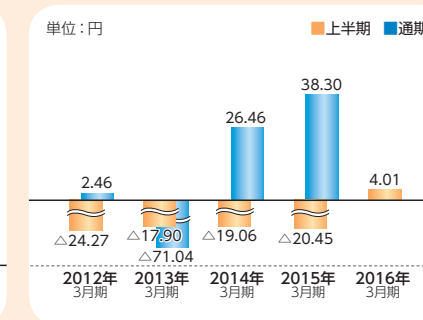
●親会社株主に帰属する四半期(当期)純損益



●1株当たり純資産額



●1株当たり四半期(当期)純損益



災害拠点医療に寄与するエンジニアリング

エンジニアリング事業の重点領域として、当社は医薬・医療分野への展開に注力しています。ここでは、大規模災害時にも拠点医療機関として医療行為を続けることができる病院施設向けの最新ソリューションにスポットを当てます。

施工例

災害拠点病院としての役割を担う仙台市立病院

仙台市立病院は2014年11月、全面移転に伴い、免震構造で災害時にも安心して医療行為を続けられる施設へと生まれ変わりました。大規模災害発生時には、拠点医療機関として対応にあたる「災害拠点病院」としての役割を担うなど、政策的医療の提供に努めています。当社は、空調設備や、BEMSの中央監視施設による自動制御の設置工事を担当しました。



▲仙台市立病院（宮城県仙台市太白区）外観

●災害時でも熱源を確保

熱源設備では、冷温熱源機器として排熱投入型冷温水機、高効率吸収冷温水機、空冷ヒートポンプモジュールチラーを設置し、全館に冷水・温水を供給しています。

温熱源機器としては、炉筒煙管蒸気ボイラーと、小型貫流ボイラーを設置し、コージェネレーションの回収蒸気とともに供給しています。

これらの熱源設備は災害によるガス遮断時に、油燃料への切替えが可能になっており、院内には、非常用発電機での使用も含めた3日間分の油を備蓄しています。

また、冷温水系統では、大温度差8℃にて環境負荷およびランニングコストの低減を図っており、冷温水搬送設備において、中央監視盤からの群発停で負荷流量により台数制御をおこない、各空調機およびファンコイルユニット類に、変流量送水圧力設定制御にて供給しています。

●中央監視でエネルギーも管理

空調設備は、セントラル方式による空調機およびファンコイルユニットを各室の用途に合わせて配置。清浄度、使用時間帯、内部発生負荷変動等に応じた適正な運転がおこなえるよう、個別空調方式の電気式空気熱源ヒートポンプパッケージエアコンを併用して設置しています。

手術室とクリーン1床室では、電気式空気熱源クリーンファンパッケージエアコンにて個別運転を可能にし、病室では、方位別ゾーン切替冷温水2管式により、1年間いつでも冷暖房設定ができるようになっています。

これらの施設全般の省エネルギー化や、機器の自動運転および保守管理の省力化など最適な環境をつくるため、



▲手術室



▲ヘッダー周りの配管

効率的な運転・操作・管理が可能なBEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）の中央監視設備による、自動制御を設置。快適な病院環境を維持しながら、建物のライフサイクル全体でのコスト削減をおこない、災害時でも強いシステムを実現する当社の技術力が、地域の拠点となる中核病院施設で、多くの人々の安全・安心を支えています。



▲手術室・病室ともBEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）の中央監視設備による、自動制御を実現

施工担当者の声

VOICE



仙台市立病院の熱源設備工事では、施設全般の省エネルギー化や、BEMSの中央監視設備による自動制御など、様々な新しい技術を採用しています。苦労も多かったのですが、今後のさらなる技術力向上の糧となることを確信しました。仙台市立病院の「災害拠点病院」としての発展を祈念しています。

東北支店 建築設備技術1部 設備技術課 課長
山田 清隆

効率的にコンベヤの衛生状態を維持

機械システム事業の重点領域として、当社は食品分野への展開に注力しています。
ここでは、食品工場における衛生管理のソリューションにスポットを当てます。

トピックス

ベルト洗浄コンベヤ

食品業界では近年、食品の製造・加工工程における衛生状態の管理が重要視されており、効率的に衛生状態を管理・維持できる設備の需要が高まっています。

そこで当社は洗浄剤メーカーとベルトメーカーとプロジェクトを組み、当社製品のステンレスコンベヤ「KIREI」シリーズをベースに検証実験を重ね、洗浄機能付きコンベヤ「ベルト洗浄コンベヤ」を開発しました。

「ベルト洗浄コンベヤ」は従来必要だったコンベヤの分解・ベルトの取り外し・洗浄・組立等の作業がすべて不要となるため、手間・難易度・時間をすべて軽減できます。洗浄には「ベルト洗浄コンベヤ」専用に開発された環境に優しく、油脂の洗浄に優れ、ベルトやステンレスを腐食しない易生分解性原料のアルカリ洗浄剤を使用します。洗浄後のベルトは、手指や食品加工設備機器、医療器具などの清浄度を調べる際に用いられるATPふき取り検査で最も清浄度の高いRLU値*のランクIまで洗浄されていることが実証され、従来のベルトコンベヤよりも容易にベルトを洗浄でき、作業者の負担を減らしながら衛生状態を維持することが可能となりました。

「ベルト洗浄コンベヤ」は2015年5月に当社の特許として出願しています。

今後は食品業界を中心に、幅広く営業展開してまいります。

*汚染の度合いを表す数値。



▲ベルト洗浄コンベヤ



▲洗浄部

公共インフラの課題を先進技術で解決

地方自治体においても、省エネルギーや災害対策など多くの課題を抱えています。
ここでは公共インフラの課題解決事例を紹介します。

トピックス

国内下水処理場に2製品を初導入

●省エネ型遠心脱水機「SANDEC G3」

下水処理場の消費電力削減ニーズに応える省エネ型遠心脱水機「SANDEC G3」を開発し、春日井市勝西浄化センター（愛知県）への国内初導入を果たしました。

「SANDEC G3」は、遠心分離機のグローバルメーカーであるアルファ・ラバル社との技術提携により国内下水処理場に導入したもので、分離液排出時のエネルギー回収や排出半径の小径化、コンベアピッチの最適化など、脱水性能の向上と動力削減につながる多くの独自機構を採用し、大幅な省エネ化を実現しました。最大3,500Gの高い運転性能と、スリム設計による省スペース化も大きな特長です。



▲SANDEC G3

●三機耐震機構付チェーンフライト式汚泥掻寄機

下水処理場では、地震発生時に汚泥掻寄機のフライトやチェーンが脱落する事故が報告され、解決が求められていました。この要請に対応すべく、耐震機構を備えたチェーンフライト式汚泥掻寄機を開発し、熊本北部浄化センター（熊本県）に国内初導入しました。

本製品は、地震が招く槽内の水揺れに対し、フライトのシュー形状を見直すことでレールからの脱落を防ぐとともに、チェーン構造においても横移動を規制する脱落防止ガードを取り付け、耐震性を確保しました。

今後「地震に強い下水処理場」への提案を通じて、シェア拡大を図ってまいります。



▲チェーンフライト式汚泥掻寄機



財務状況

(単位：百万円)

科 目	前期末 (2015年3月31日現在)	当第2四半期末 (2015年9月30日現在)
流動資産	116,224	93,720
固定資産	60,157	56,405
資産合計	176,382	150,126
流動負債	72,106	54,146
固定負債	19,406	13,841
負債合計	91,512	67,988
純資産合計	84,869	82,137
負債純資産合計	176,382	150,126

POINT

●資産

資産は、前期末と比べ26,256百万円(14.9%)減少し、150,126百万円となりました。これは主に当社グループの売上高は期末に集中するため、各四半期末の売上債権は前期末と比べて減少するという季節的変動によるものであります。

●負債

負債は、前期末と比べ23,524百万円(25.7%)減少し、67,988百万円となりました。これは、主に資産と同様の季節的変動により仕入債務が減少したことによるものと、退職給付信託資産に追加拠出したことに伴い、退職給付に係る負債が減少したことによるものであります。

●純資産

純資産は、前期末と比べ2,731百万円(3.2%)減少し、82,137百万円となりました。これは主に投資有価証券の時価の下落により、その他有価証券評価差額金が減少したことによるものであります。

経営成績

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期（累計） (2014年4月1日から2014年9月30日まで)	当第2四半期（累計） (2015年4月1日から2015年9月30日まで)
売上高	75,507	75,480
営業利益又は営業損失（△）	△2,705	176
経常利益又は経常損失（△）	△2,325	524
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△1,327	255

POINT

●売上高

売上高は、75,480百万円となり、前年同期と同等の水準を維持しております。

●営業利益

営業利益は、設備工事業において受注環境の改善に加え、原価管理の徹底など利益改善に努めた結果、前年同期から2,882百万円改善し、176百万円の営業利益となりました。

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期（累計） (2014年4月1日から2014年9月30日まで)	当第2四半期（累計） (2015年4月1日から2015年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,535	△1,330
投資活動によるキャッシュ・フロー	27	5,599
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,247	△1,010
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,732	26,877

POINT

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に売上債権の回収が仕入債務の支払いを上回ったものの、退職給付信託資産に追加拠出したこと及び法人税等の支払いにより、1,330百万円の減少となりました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に定期預金の払戻しにより、5,599百万円の増加となりました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払いにより、1,010百万円の減少となりました。

会社概要

会 社 名 三機工業株式会社
英文社名 SANKI ENGINEERING CO., LTD.
創 立 1925年4月22日
資 本 金 81億518万円（2015年9月30日現在）
事業内容 建築設備事業、プラント設備事業、不動産事業
従業員数 連結 2,320名 個別 1,946名
（2015年9月30日現在）

事業所一覧

支 社 3ヶ所
支 店 15ヶ所
研 究 所 1ヶ所

連結子会社

三機テクノサポート株式会社
三機産業設備株式会社
三機化工建設株式会社
三機環境サービス株式会社
親友サービス株式会社
アクアコンサルト社（オーストリア）
タイ三機エンジニアリング&
コンストラクション社（タイ）

役員

○取締役および監査役
代表取締役会長 梶浦 卓一
代表取締役社長 長谷川 勉
取締役 玖村 信夫
藤井 日出海
本松 卓
川辺 善生
山本 幸央
西尾 弘樹
安永 俊克
古村 昌人
井口 武雄
則定 衛

○執行役員
社長執行役員 長谷川 勉
専務執行役員 玖村 信夫
常務執行役員 藤井 日出海
三石 栄司
齊藤 一男
白木 博之
渡邊 純次
本松 卓
杉浦 繁
國廣 正年
井上 忠昭
松永 博行
岡元 正治
名取 秀雄
古川 松雄
宮崎 和夫
鈴木 茂
福田 順一
富田 弘明
福井 博俊
石田 博一
吉川 博
朝倉 和昭
工藤 正之
山口 理
矢野 憲一
渡邊 重人
川辺 善生
泉 和男
穴口 常明

常勤監査役
監査役

株式の状況

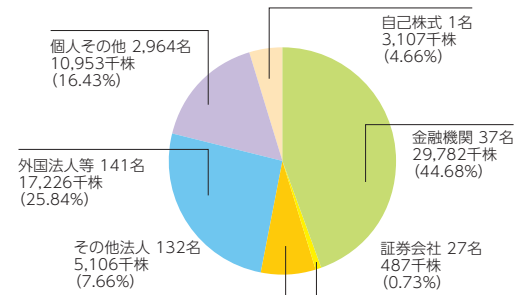
発行可能株式総数 192,945,000株
発行済株式総数 66,661,156株
株主数 3,302名

大株主

株 主 名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井生命保険株式会社	6,300	9.91
明治安田生命保険相互会社	5,700	8.97
日本生命保険相互会社	4,672	7.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,627	4.13
三機共栄会	2,572	4.05
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,246	3.53
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505223	1,702	2.68
ジェービー モルガン チェース バンク 385093	1,596	2.51
シービーエヌワイ デイエフエイ インター ナショナル キャップ バリュース ポートフォリオ	1,378	2.17
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー 505103	1,352	2.13

(注) 当社は自己株式3,107千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。
また、持株比率は自己株式を除いて計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期 末 配 当 金 3月31日
(3) 中 間 配 当 金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定める。

公告掲載方法 電子公告の方法により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載いたします。
(当社ホームページ <http://www.sanki.co.jp>に掲載します。)

単元株式数 100株

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店（コンサルティングオフィス・コンサルブラザを除く）で行っております。

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。